

「へんな日本が見えてきた」ついき

(椎名誠講演会から)

秦 和子

現在、世界には飲み水がない人が27億、30億人くらいいます。水戦争は将来必ずおこるでしょう。日本は国土の70%が森林で、梅雨もあり、うらやましがられていません。日本の水道水には発がん性や奇形になる可能性のあるトリハロメタンや塩素を法律で入れている。世界から見たら日本は水はきれいなものだから、そこまででなくともいいのでは。

また、びわ湖では釣ったブラックバスを大きな缶に入れて捨てている。それなのに、かまぼこの材料としてブラックバスの身を輸入している。狼がいなくなったために、そして人間が人工林を増やしすぎたために生きる場を失って里に出てきたシカやイノシシを山里の人たちは罠で捕まえて殺している。そうして殺した動物の肉を捨てている。食糧の乏しい国では「さるじやが」「へびじやが」を食べているのです。エスキモーはアザラシの生肉を食べる文化です。私が訪ねた時、ちょうど解体をしていて、人々が大腸のあたりを30センチくらい切り取ってチューチュー吸っていました。女の子が私にも食べると15センチくらいのをくれましたが、臭くて…あれはアザラシのうんこでした。アザラシの寄生虫も一緒に食べる。それはまさしく狼の食事でした。

世界中を歩いた椎名さんの目から見た「へんな日本」がユーモアたっぷりに語られ、いろいろ考えさせられる2時間でした。



どう考える、増えるシカ・イノシシ

シカやイノシシが田畑を荒らすという話を耳にすることが多くなりました。会員以外の人から熊森はどうなの？と意見を聞かれることもあり、定例会で話題になりました。環境庁の予測ではシカは10年後には倍増して5百万頭にもなるとのこと。野生動物が増えて人間との軋轢を生むようになったのは、さまざまな要因がありますが、すべて人間がもたらした結果であることは間違いありません。数字には多少疑問もありますが、増え続けることは確かとなれば、今後どうしたらいいのか。いろいろな意見が出ました。

このままだと山間地の農家ばかりでなく平野部の農家にも被害がひろがる。森林も荒廃するのではないかと。植林の苗木も育たない。狩猟もやむを得ないのではないかと。しかし、環境庁が思っているほど猟師が育つとも思われない。オオカミを導入してはどうか。などなど。とても難しい問題で短い時間では足りませんでした。また、機会を作り話し合いたいと思います。

(森川)

くまもりの輪

高槻市 森 頼穂

人間は自然界の総てにより生かされているのに、応分のお礼を返しているでしょうか。熊森協会の皆さんの働きに感謝いたします。

私は高槻ラグビースクールで毎日曜日に幼稚園生・小学生にミニラグビーを教えています。

ミニラグビーは、ボール・グラウンド・試合時間の全てが小型サイズの子ども向け仕様です(日本ラグビー協会制定)。スクールの理念は「ラグビーの楽しさを伝える」こと、プレイスタイルはボールを持って走り、繋ぎ続けることを目指しています。ラグビーと言えば「ノーサイド」「フェアプレー」の精神が有名文言ですが、その背後に有る「自助・援助の精神」、そして「ゲームは監督ではなく選手たち自らが作り上げる」という気概とその楽しさを育てていきたいと思っています。

■今日の定例会報告■

▽2月9日 2時〜4時半

▽出席者8名

◆本部連絡事項 (平尾地区長)

・くまもり自然農塾

3/21〜12/7 田植え、稲刈りなど(全11回)

但東町大河内、参加費2千円

・鳥獣保護法改定案(政府、今国会に提出)

・人工林の無料間伐を募集中

7割以上の切り捨て間伐ができる民間の山を募集しています。熊森の間伐要員が無料で行います。切り捨て後は原則、自然再生にまかせますが、時には広葉樹の植樹も行います。

◆環境教育練習日 2月24日(月) 2時

場所 高槻NPOサポートセンター

◆「みどり生き生きみのお環境イベント」

日程決定 4月6日(日)

◆映像と報告 (藤田)

「大地震にあつた岩手、大槌町の今昔」

地震直後の映像に加え、昨年11月に訪れた町の様子を語られました。

◆「増えるシカ、イノシシの問題」上記 ほか

◆「増えるシカ、イノシシの問題」上記 ほか



今後の定例会予定

3月9日(日)

4月13日(日)

いずれも2時から4時半

千里中央コラボ第3会議室

北大阪たよりのご質問
ご意見、ご連絡などは下記へ
森川 TEL 06-6310-8673
FAX 06-6310-8674
mon-art@zeus.eonet.ne.jp